

グループホーム孫子老(認知症対応型共同生活介護事業所)

1. 評価結果概要表

作成日 20 年 7 月 2 日

【評価実施概要】

事業所番号	1870400247
法人名	有限会社 ケアライフ光
事業所名	グループホーム孫子老
所在地	福井県小浜市遠敷(池田)57-13 (電話) 0770-56-5705

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2-3-22		
訪問調査日	平成20年5月28日	評価確定日	平成20年7月2日

【情報提供票より】 (20 年 5 月 15 日 事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 17 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6 人、非常勤 2 人、常勤換算 7.83 人	

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	53,000 円	その他の経費(月額)	22,000 円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	150 円
	または1日当たり		1,050 円	

(4)利用者の概要 (5 月 15 日 現在)

利用者数	8 名	男性 3 名	女性 5 名
要介護1	2	要介護2	1
要介護3	1	要介護4	1
要介護5	3	要支援2	0
年齢	平均 81.3 歳	最低 75 歳	最高 91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	内科:医療法人 千葉医院 歯科:大下第三歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小浜市の東部、国道から南に少し入った山を背負った集落の中に当ホームはある。ホームの共有スペースからは田畑や山の風景が身近に見られ、落ち着きを感じられるホームである。毎日の過ごし方は、職員と入居者がその日の状況や会話等から決めており、日常的な外出についても、寝たきりの入居者には車椅子を利用して散歩や買い物で気軽にかけられる支援が行われている。認知症ケアや看護について専門職を配置しており、介護・看護体制の充実を図っている。介護面では、「お世話をさせて頂く」という姿勢が職員全体に浸透しており、入居者にとって安心できる介護サービスが提供されている。医療面では、入居前からのかかりつけ医の継続受診を支援したり、認知症疾患センターの相談機能を活用するなどの体制がある。重度化や終末期に対しては、家族の要望や意向に配慮しながら、看取りまでの支援を実際に行ったケースもある。また、日々の暮らしの中で、希望者には学習療法を取り入れており、意欲向上等の効果がみられている。運営者、管理者、計画作成担当者は親子で、家族経営の中で高い理想と理念を持ち、実践に取り組んでいる。今回の自己評価・外部評価の結果をホームのパンフレットと共に郵便局や銀行の待合フロア等に設置することも検討しており、地域に対する情報提供に積極的に取り組んでいく予定である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の外部評価は受審しておらず、前回の評価から2年が経つ。前回の要改善項目であった居室空間については、馴染みの生活用品が持ち込まれ、食事は和やかな雰囲気の中で入居者が自宅から持参した好みの食器が使用されており、また、金銭管理に関して、お小遣い程度の使用は可能となっているなど、管理者の努力により改善されていることが確認できた。しかし、職員は外部評価の改善内容を把握できていないなど、外部評価の意義を踏まえた事業所全体での取り組みにはなっていない。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者が日常の介護の合間等に職員から聞き取りをしたり、介護記録等の情報を基に作成している。前回の外部評価での要改善項目は概ね改善できているものの、今回の自己評価も事業所全体での取り組みとは言い難い。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	昨年度は3か月に1回の開催となっていた運営推進会議を今年度からは2か月に1回の開催としており、この予定を確実に実行することが求められる。市や地域包括支援センターの職員が参加しており、検討事項の中から、地域ふれあいサロンに入居者が参加したり、管理者が講師に呼ばれるなど地域との新しい関係づくりにもつながっている。行政との連携という点では充実しているが、区長等の地域代表者や家族の参加が少なく、地域や家族の意向があまり反映されていないため、今後は、地域代表者や家族への積極的な参加の働きかけを期待したい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	家族の訪問時や電話を利用して意見交換を行っている。介護度の重い入居者の家族には、終末期や看取り等の不安要素について、話し合いも行われている。また、意見箱を設置して、積極的に活用してもらえるように管理者からも家族に周知している。導入して間もないが、複数の家族から意見を投函してもらっており、今後毎月集計し、掲示していく予定である。運営推進会議への家族の参加が少ないため、さらに積極的な参加を促し、家族の意見を運営に活かす取り組みを期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区自治会に加入し、区長とは地域との連携について話し合いを行っているが、新興住宅地という立地上、参加する地域行事がほとんどないという状況である。しかしながら、近隣住民とは挨拶や野菜をもらうなどの日常的な付き合いがあるほか、地域のボランティアを受け入れて、入居者との交流を図っている。管理者は、地域ふれあいサロンで認知症に関する講義や予防活動を実施する機会を得ており、今後も多方面での連携が期待できる。

2. 評価結果（詳細）

 は、重点項目。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		理念に基づく運営 1 理念の共有			
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念である安心して生活してもらえる環境づくりを基本として、グループホーム独自の「常に入居者様の立場に立ち、(省略)真心をもってお世話をさせて頂く」という理念の下で、入居者が住み慣れた地域で安心した生活が継続できるように支援している。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有化するため、玄関と廊下に理念が掲示されている。また、記録物や職員とのヒアリングから、入居者に対するサービス提供の姿勢に理念が反映されていることが確認できた。		
		2 地域との支えあい			
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として自治会に加入している。地域でのイベントや行事は少ないが、祭りに参加したり、近隣住民と日常の交流を持ったり、ボランティアの受け入れ等を通じて、地域と積極的に関わる努力がみられる。		
		3 理念を実践するための制度の理解と活用			
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価が2年前であり、その後改善された取り組みはあるものの昨年度は外部評価を受審していない。今回の自己評価も、職員の意見や介護記録等から管理者が作成しており、事業所全体での取り組みとは言い難い。		自己評価や外部評価のために全職員で話し合い、課題改善に取り組むことでサービスの質の向上につながるため、今後は、職員と評価の意義を共有して、協同で取り組むことが求められる。
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市や地域包括支援センターからの参加はあるものの、地域代表者や家族の参加が少なく、地域や家族の意向が反映されにくい状況である。会議回数も少なく、取り上げられた検討事項等も、職員にまで共有されておらず、運営推進会議が十分に活かされているとは言えない。		今年度からは、2か月ごとに開催する予定としており、活発な意見交換や協議内容の職員間の共有、意見を踏まえた運営への反映等、より充実した会議となることを期待したい。
	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は行政側に積極的に相談を持ちかけて、今後は、介護保険事業以外の宅老所的な通所サービスも検討中であり、地域に根ざしたサービスの実践に前向きである。		
		4 理念を実践するための体制			
	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時や電話を利用して、現在の状態を報告している。		訪問時や電話での口頭による報告のみならず、家族に日常生活の様子や入居者本人の表情等を伝える手段として定期的な便り(広報紙)等の発行についても期待したい。
	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置して、積極的に活用してもらえるように管理者からも家族に周知している。導入して間もないが、複数の家族から意見を投函してもらっており、今後毎月集計し、掲示していく予定である。運営推進会議への家族の参加が少ないため、会議を通じた意見把握はあまり行われていない。		今後は、運営推進会議への家族の積極的な参加を働きかけ、家族の意見を運営に反映する取り組みに期待したい。
	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1ユニットのグループホームと居宅介護支援事業を同事業所内で行っており、職員の異動はない。新採用の職員には、馴染みの関係ができるまでは夜勤には入れない対応をしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医にこだわらず、入居者本人のこれまでのかかりつけ医での継続的な受診を支援している。受診時の通院支援も行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	認知症の進行によっては、早い段階で他施設への入所申請を勧める一方、入居者や家族との話し合いにより、ホームでの終末期を支援する体制があり、実際に看取りを行ったケースもある。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者のプライバシーの確保に努めており、外部者からの電話は、家族から関係が確認できている場合に入居者本人につなげている。各居室の表札は花の名前を使用しているが、希望により本人の名前やその人にゆかりがある名称を使用することもある。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前のラジオ体操や希望者に対しての学習療法以外の日課は、入居者との会話等からその日の過ごし方を決めている。散歩、外出、買い物等は入居者の希望に添って行っている。		入居者の生活歴や趣味の中から活動の意欲を引き出し、例えば軽作業や小物作り等を行うことから達成感や充実感を味わえるような工夫も期待したい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理師による献立作成を基本としているが、時には、入居者と共に献立を決めている。調理や食器の片付け等は、入居者の能力に応じて、職員と一緒にしている。入居者が自宅から持参した好みの食器を使用し、食事の風景も職員と入居者が会話を楽しみながら和やかな雰囲気であった。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は週3回で午前・午後いずれでも入浴が可能である。今のところ入居者からは、決められた日時以外での入浴希望はないが、希望があれば対応が可能である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	希望者には、学習療法を行っており、意欲向上等の効果がみられている。また、居室や共有スペースの清掃、調理やおしぼり作り、食器片付け等、入居者一人ひとりが、日々の生活での役割を持ちたり、能力を発揮できるように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩等が日常的に行われている。歩行困難な入居者に対しても、車椅子を利用しての地域内の外出等の支援がある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることで閉塞感を増強させることを職員は認識しており、鍵をかけない自由な暮らしの実現に取り組んでいる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年に1～2回の避難訓練を行っている。地域の緊急連絡体制の中に位置づけてもらったり、交通安全教室、防犯訓練を行うなど充実した安全対策に取り組んでいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理師は病院での勤務経験を活かして献立を立てている。介護記録には、食事摂取量の記載があり、職員全員が情報を共有できている。水分補給にも配慮しており、1日1.5リットルの水分量を目標としている。		栄養の観点からも、定期的に地域の専門家(栄養士)等から献立等のチェックやアドバイスを受けられることを期待したい。
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには食卓のほかにソファが置かれ、小上がりの量の間がある。大きなガラス扉からは、季節感溢れる風景が望め、窓からの涼風が心地良い。		共有スペースから望める季節感ある風景に溶け込むように生活雑貨や生花を飾るなどして、より居心地の良い空間づくりを期待したい。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、使い慣れた生活用品が持ち込まれ、入居者が安心できる居室になっている。		

は、外部評価との共通項目。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	理念に基づく運営 1 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	世代間交流の目的と、その方中心のケアの実現のための理念をつくっている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、必ず理念を唱えるようにしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホームの見やすい位置に掲示したり、ホーム通信等に掲載している。		
	2 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩に出かけたりした際には、積極的に声をかけたり、ホームで勉強会等を開いたりしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りには、参加しているが、地域活動自体が少ないので難しい現状もある。		保育園や学校等にも働きかけ、交流できるような体制をつくってきたい。
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の様々な組織の研修や、会合に出向いて講演を行ったり、勉強会を行ったりしている。		
	3 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員での作成は難しいが、現場スタッフの意見等は、積極的に取り入れている。		評価の意義等を正しく理解して頂くように、学習の場を持ちたい
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日程の調整や、現場の忙しい状況により、2ヶ月に1回程度の開催が出来ていない。		運営推進会議の必要性を正しく理解し、きちんと開催することで、サービスの透明性が保たれるように努めたい。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村が開催するような研修には積極的に参加し、交流を図っている。		出向くばかりでなく、来てもらえるような場を考えていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度に関する研修に参加したり、資料をそろえている。実際に利用されている方も居る。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等を通じて、虐待の防止等を徹底している。		
4 理念を实践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ケアに関する考え方や取り組み、事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方からの意見が得られにくい現状がある。		利用者の言葉や態度表情からその思いを察するように努力し、思いを形にしていく努力が必要である。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に、ご家族と話す機会を持ったり、電話等で現況等を報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた際に、意見や苦情等を伺ったり、意見箱を設置している。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを通じて広く職員の意見を伺ったり、日頃から積極的にコミュニケーションを図っている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者自らも現場に入ること、昼夜を通して利用者の状態を把握できている。		重度化してきているので、職員のストレスもたまり易いので、職員の増員をしたい。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は少ないので、馴染みの関係が出来ており、利用者への影響は見られない		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外での研修に、参加して頂けるように、研修への積極的参加を勧めている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の連絡会や全国組織の協会に加盟し、研修や勉強会に参加している。近隣のグループホームの行事等へ参加し、交流を図っている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	食事以外でも、職員だけでくつろげる時間を確保している。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も毎日現場に来ており、利用者や過ごしたり、職員の勤務状況等を把握している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	事前面談で生活状態を把握するように努めたり、希望に応じて通所でホームの生活を体験して頂ける仕組みをとっている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	御家族の要望や現在の生活状況を聴き、どのような対応が出来るかを事前に話し合いをしている。		正しい情報を得られないケースもあるので、聴きだす努力が必要であると思われる。
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ニーズを正しく理解した上で、必要な利用者には、他のサービスや事業所の紹介等も行っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に見学をして頂いてからサービス利用に繋げて、安心して利用できるように努力している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たず、協働しながら和やかな生活が出来るように場面作りや声かけをしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いを家族に伝えることで、家族を現場の中に引き込むようにしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出や外泊を勧めたり、行事に家族を誘ったりしている。来訪時には、両者の間に入って、スムーズに交流が出来るようにお手伝いしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所が遠方の方が居られたり、そういう場所に出かけるのを嫌がられたりするので難しい。		外出の頻度を増やすことで、自然の流れで馴染みを味わえるように機会をつくりたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の時間等は、職員も一緒に多くの会話を持つようにしている。役割活動を通して相互扶助の関係が出来つつある		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所へ移られた方にも、利用者と一緒に遊びに行ったりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		1 一人ひとりの把握		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を聴き出したり、意思疎通が困難な場合には家族等から情報を得るようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人自身の会話の中や、家族、知人の訪問時などに少しずつ把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	出来ること出来ないことを明確にし、出来ることを伸ばしていけるように努めている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望を聴き、スタッフの意見等をふまえた上で作成している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画と介護記録を見比べながら、必要であれば随時変更するようにしている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間分の記録を記入することで、細かい情報が得られるようにしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院等の必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	交通安全教室や避難・防犯訓練を開催し、協力を得られやすい環境を整える努力をしている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望に応じて、訪問理容のサービスを利用してもらっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加することで、困難事例や解決が難しい問題について円滑に話が出来るようになった。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるようにしている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	嶺南認知症疾患センターの役割のある医療機関と密に連絡を取り合い、治療や、介護に関する指導や助言を頂いている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を配置しているので、常に適切な健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている。医師、看護師とも連絡を密にし、速やかな退院支援に結び付けている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ホームで対応できる範囲を説明した上で、困難が生じた場合には、話し合いをもち、本人にとって最良のサービスが受けられるように支援している。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>本人や家族の意思を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最後を迎えられるように、随時意思確認を行っている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>新しい環境でも、生活の継続性が損なわれないように、これまでの生活環境、支援内容、注意点等について情報提供し、細かい連携に心がけている。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>		<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者本位でなければならないが、業務優先の声かけをしている職員が居る。</p>		<p>尊厳について正しく理解できるような勉強する場を設けようと思う。言葉かけや行動を点検する体制を作っていく。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>職員側で決めたことを押し付けてしまっている場面が見られる。職員の目線が利用者より高いことがある。</p>		<p>利用者に合わせた声かけの徹底と、複数の選択肢を提案し一人ひとりが自分で決める場面をつくる。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一目の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>日頃から、化粧やおしゃれを楽しんでもらえるように取り組んでいる。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理に参加してもらったり、食事を一緒に摂るように心がけている。利用者の好むような音楽や、癒しのBGMをとりいれている。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>アセスメントの段階で、個人の嗜好についてもきちんと把握し対応できるようにしている。</p>		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、尿意の不正確な利用者にも、尿瓶やポータブルの利用を試みたりしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日を決めてしまっている。医師から入浴制限の出ている利用者も居て、対応が難しい。		本人のこれまでの生活習慣や希望にあわせた入浴が実現できるように、検討する。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	必要があれば、医師と相談して薬剤のあり方について検討している。寝付けないときには、職員が添い寝をしたりしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その方の能力に応じて、出来そうな仕事を頼み、感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理を行っていないので、出来ていない。		運営方針の見直しを行い、お金を所持し使える機会をつくらなければならない。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候や、体調に配慮し、散歩やドライブや外食にでかけている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者から、希望が出ないので、実現していない。		利用者に寄り添う時間を多くすることで、希望を聴きだしたり、会話の中でヒントをみつけて、実行していきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの電話は、時間等も全く制限せずに、自由である。		年賀状と、暑中見舞いを毎年出すための支援をしていきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも、来やすい環境にしておくために、訪問時間等は定めていない。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない為に、身体拘束廃止委員会が設置されている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は常に利用者の様子が見渡せる場所に居て、その日の気分や状態変化をキャッチすることで、鍵をかけずに自由な暮らしを支えている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、常に利用者と同じ空間で作業を行い、全員の状況を把握するように努めている。夜間は巡回時間を定めて、様子を確認している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	状況に応じて、厳重に保管したり、使用時に注意が必要なもの等にわけて保管している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的に、KY訓練を行い、事故を未然に防ぐための工夫に取り組んでいる。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	一部の職員しか行っていない。		消防署等の協力を得て、救急手当てや蘇生術の研修を実施する。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画を作成し、利用者とともに避難訓練等を行っている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	役割活動や外出において、リスクが高くなるものの、生活の豊かさを高めるためであることを、説明し理解を得られるようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一日2回のバイタルチェックを行い、こまめに観察することで、状況の変化に気づきやすくしており、状況によっては、医療受診につなげている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が主に管理しており、服薬は、氏名等の確認を徹底している。		服薬ファイルの作成や、薬に関する勉強会を開催していく。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材の工夫や適度な運動を働きかけ、自然な排便ができるように取り組んでいる。必要であれば、便秘薬を利用し、排便コントロールを行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の、歯磨きの声掛けや、力に応じて見守りや、介助を行っている。就寝前は、義歯を外して洗浄している。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、情報を共有している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者、職員ともにインフルエンザ予防接種を受けている。感染症に関する外部の研修に積極的に参加している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、台所水周りの清潔・衛生を保つように、職員で取り決め実行している。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にプランターを置いてみたり、近隣の住居に溶け込めるように、大きな看板等は設置せずに、木製の表札のような看板を設置している。		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居る場所から、五感や季節感を味わえるように意識的に取り入れる工夫をしている。		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い通りに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置き、一人で過ごしたり、利用者同士でくつろげるように配慮している。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具以外にも、写真等を持ち込まれ利用者の居心地の良さに配慮している。		
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓を開けなくても、自然に換気できるシステムを取り入れており、温度変化も生じないようにしている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、手すりや浴室、トイレ、廊下などの居住環境が適しているかを見直し、安全確保と自立への配慮をしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	大まかなことはしているが、個人の能力に応じた所まではできていない。		各人の状況に応じた環境整備に努め、不安材料を取り除き、力を取り戻せるような工夫が必要である。
87	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にベンチを置いて、涼んだり日向ぼっこができるような工夫をしている。		
項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)		
サービスの成果に関する項目				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・認知症ケア専門士を配置している。・ほぼ、毎日学習療法を実践している。